

聖心会ゆかりの聖母マリア

「聖心会の聖母」

原画はイタリア ルネッサンス時代の画家 Andrea Solario (1460-1524)による「Madonna e Bambino」(The Virgin and Child) (1510 年作) ブダペスト国立美術館所蔵。

1800 年 11 月 21 日、聖マグダレナ・ソフィアと 3 人の仲間がパリのトゥレイン (Rue de Touraine)



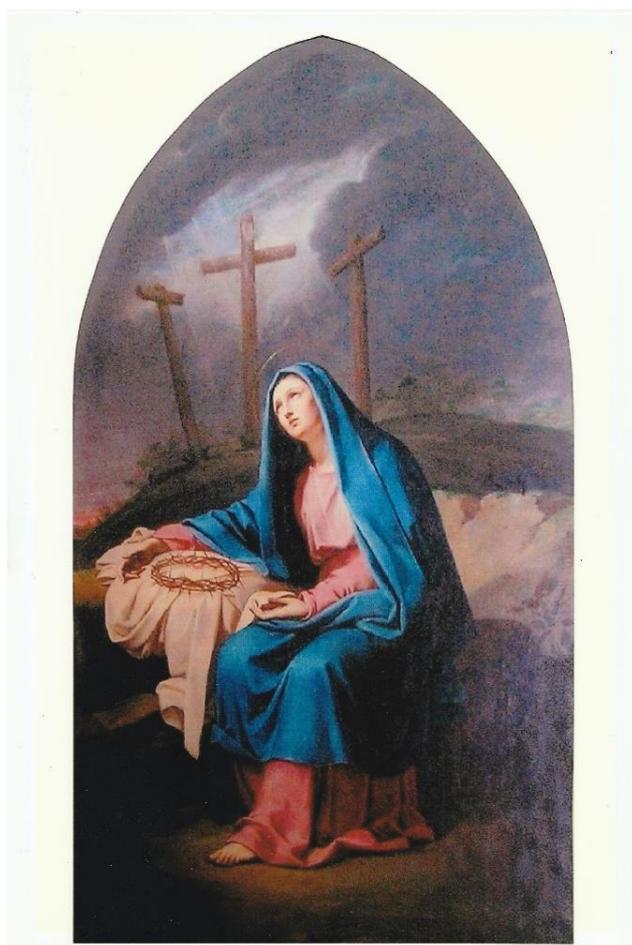
の兄のルイ・バラ神父の住まいの聖堂で最初の奉獻をしたとき、壁に掲げられていた聖画。彼女はこの

絵を「聖心会の聖母」と名付け、本部の所在地が変わる度に大切に運んだ。

現在もローマの聖心会本部に飾られている。1850 年、創立 50 周年には、会の各修道院に、この聖画と創立以来受けてきた限りない恵みを感謝する次のような祈りが贈られた。「イエスのみ心よ、あなたはマリアのみ心のうちにご自分の声を響かせ、マリアは主の愛と栄光に、ご自分を完全に奉獻することによって応えられました。(中略) 今、世界中に広がる全世界が、50 周年前に奉獻生活を始めた創立者と同じ熱意をもって、マリアの汚れないみ心を通して願います。全員が死に至るまで創立者と共にその同じ奉獻を生きることができるよう。」現在、会員は誓願宣立 50 周年記念にこの聖画のコピーを贈られ、創立者と共に奉獻を新たにしている。

「悲しみの聖母」

原画は、ローマの聖心会ヴィラ・ランテ修道院の庭を囲む壁に描かせたフレスコ画で、1838年11月6日、教皇グレゴリオ16世により、祝別された。複雑な問題を抱えた1839年の総会終了後、創立者はこの「悲しみの聖母」の前で、聖心会を次のような祈りによって奉獻した。「愛と悲しみのみ母聖マリア、イエスのみ心の模範に忠実に従った、あなたのみ心に倣う恵みをお与えください。とりわけ、生き生きとして信仰、真の謙遜、そして悲しみから立ち上がり、あなたと共に十字架の許に、静かに、しっかりと立つ勇気をお与えください。愛はあなたに十字架を与えました。願わくは十字架が私たちに愛を与え、イエスのみ心に奉獻された私たちが、御子の十字架以外には、どのような十字架も知ることがありませんように。キリストの十字架が私たちの守り手となり、キリストの死が私たちの力、信頼となりキリストの恵みが慰め、支えとなりますように・・・」。聖マグダレナ・ソフィアはこの壁画を非常に愛していたが、ジャンニコロの丘に遊歩道が建設されたとき、フレスコ画が描かれていた壁の一部が取り壊されてしまった。その後画家Gagliardiによって再生され、現在ヴィラ・ランテ修道院に飾られている。



「感ずべき御母」

1844年にローマ・スペイン広場の上にあった聖心会修道院で、志願者ポーリン・ペルドウローが二階の廊下の壁に描いた聖母。彼女はエルサレムの神殿にいる一人の若い女性としてのマリアアをフレスコ画として表現した。

1846年10月20日、修道院を訪れた教皇ピオ9世がこの絵をご覧になり、そこに表現された聖母の美しさ、清らかさ、単純さに深く心を打たれ

「実に感ずべき聖母」(Mater Admirabilis)と呼ばれるようになった。現在、世界中に広がる聖心女子学院には、どこを訪れても必ずこの絵が飾られている。ここに描かれた若いマリアのお姿に、創立者が目指した女性の理想がうかがえる。マリア



アは見えないもの、本質的なものを観る女性であり、傍らの置かれた糸紡ぎとバスケットの上に置かれた聖書に象徴されるように、祈りと活動の中での沈黙と静けさの鑑であり、多様な価値が交錯する現代世界に生きる私たちにもっとも大切なことは何であることを示してくださっている。

新庄美重子著 聖母マリアー聖心会にとってー「家庭の友」2016年5月号より

聖心女子学院の教育教員用ハンドブック 参照